

日本マイコトキシン学会  
第70回学術講演会講演要旨集

Proceedings of the 70<sup>th</sup> Meeting of  
the Japanese Society of Mycotoxicology



期日：平成24年1月6日（金）

会場：タワーホール船堀

主催：日本マイコトキシン学会

## プログラム

09:30-09:35 開会挨拶 鎌田 洋一 (国立医薬品食品衛生研究所)

09:35-10:11 一般講演 (5F 小ホール)

座長：長嶋 等 (農研機構食品総合研究所)

O1 T-2 トキシンの心機能作用における自律神経遮断薬の効果

○スチトラ・ガンポンサ (Suchitra Ngamponsa)<sup>1</sup>、

伊藤公一<sup>1</sup>、桑原正貴<sup>1</sup>、局 博一<sup>1,2</sup>

1 東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻比較病態生理教室、2 同研究科附属食の安全研究センター

O2 T-2 トキシンによるラット心筋細胞の呼吸機能に及ぼす影

響

○局 博一<sup>1,2</sup>、スチトラ・ガンポンサ (Suchitra Ngamponsa)<sup>1</sup>、

伊藤公一<sup>1</sup>、桑原正貴<sup>1</sup>、花房真和<sup>2</sup>

1 東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻比較病態生理学教室、2 同研究科附属食の安全研究センター

O3 ヒト肝臓癌由来細胞株 HepG2 の細胞内レドックスにおよぼすデオキシニバレノールの影響

○杉山圭一<sup>1</sup>、木下麻緒<sup>2</sup>、葉袋裕二<sup>2</sup>、鎌田洋一<sup>1</sup>、

谷 史人<sup>3</sup>、小西良子<sup>1</sup>

1 国立医薬品食品衛生研究所・衛生微生物部、2 玉川大院農・資源生物、3 京都大学・地球環境学堂

10:20-10:56 一般講演 (5F 小ホール)

座長：杉浦義紹 (神戸市環境保健研究所)

O4 タイプ B トリコテセン系かび毒の酵母を用いた毒性比較

○鈴木忠宏、岩橋由美子

農研機構 食品総合研究所

O5 バルカン腎症の原因物質と考えられるオクラトキシン A およびアリストロキア酸のマウスに対する遺伝子傷害性の比較

○鈴木孝昌<sup>1,2</sup>、ラマダン・アリ<sup>2</sup>、小原有弘<sup>2,3</sup>、

本間正充<sup>2</sup>、林 真<sup>2,4</sup>、菊池 裕<sup>5</sup>

国立医薬品食品衛生研究所、1 遺伝子細胞医薬、2 変異遺伝、5 衛生微生物、3(独)医薬基盤研究所、4(財)食品農医薬品安全性評価センター

研

**O6** 分泌性リパーゼの進化により生じるトリコテセン系かび毒の側鎖多様性 - *Tri104* 遺伝子の同定と側鎖脱アセチル化酵素の性質

○前田一行<sup>1,3</sup>、富永直樹<sup>2,3</sup>、兵藤壮一郎<sup>2,3</sup>、大里修一<sup>1</sup>、鎌倉高志<sup>2</sup>、米山勝美<sup>1</sup>、吉田 稔<sup>3</sup>、木村 真<sup>3,4</sup>

1 明治大学 農学部、2 東京理科大 理工学研究科、3 理化学研究所 基幹研究所、4 名古屋大学 生命農学研究科

11:05-11:41 一般講演 (5F 小ホール)

座長：宮崎 茂 (動物衛生研究所 寒地酪農衛生研究領域)

**O7** 日本における米類および味噌類のアフラトキシン規制値の研究

○斉藤史朗<sup>1</sup>、佐藤敏彦<sup>2</sup>、由田克士<sup>3</sup>、荒井裕介<sup>3</sup>、野末みほ<sup>3</sup>、小西良子<sup>4</sup>

1 株式会社金融エンジニアリング・グループ、2 北里大学医学部附属臨床研究センター、3 国立健康・栄養研究所、4 国立医薬品食品衛生研究所

**O8** 黒麹菌のマイコトキシン産生について

○浅野勝佳<sup>1</sup>、渡嘉敷唯章<sup>2</sup>、廣瀬(安元)美奈<sup>2</sup>、高良亮<sup>2</sup>、豊里哲也<sup>2</sup>、吉野敦<sup>2</sup>、池端真美<sup>2</sup>、陰地義樹<sup>1</sup>、橋本ルイコ

劉瑩<sup>4</sup>、横山耕治<sup>4</sup>、高橋治男<sup>5</sup>

1 奈良県保健環境研究センター、2(株)トロピカルテクノセンター、3 千葉県衛生研究所、4 千葉大学真菌医学研究センター、5 国立医薬品食品衛生研究所

**O9** *Fusarium fujikuroi* のフモニシン産生能の有無を識別する DNA マーカーの開発

○須賀晴久<sup>1</sup>、月星隆雄<sup>2</sup>、上垣隆一<sup>2</sup>、中島 隆<sup>3</sup>、景山幸二<sup>4</sup>、百町満朗<sup>5</sup>

1 岐大生命セ、2 畜産草地研、3 九州沖縄農研、4 岐大流域研セ、5 岐大応生

11:45-12:00 休憩

12:00-12:50 ランチョンセミナー (4F 研修室)

アジレント・テクノロジー (株)、アヅマックス (株)、フォス・ジャパン (株)、(株) プラクティカル

- 13:00–14:00 ワークショップ (5F 小ホール)  
「総アフラトキシン試験法のケーススタディ」  
座長：田端節子 (東京都健康安全研究センター)
- W1 多機能カラムによる総アフラトキシンの試験法  
吉成知也  
国立医薬品食品衛生研究所・衛生微生物部
- W2 イムノアフィニティカラムによる総アフラトキシンの試験法  
谷口 賢  
名古屋市衛生研究所・食品部
- W3 検査機関における総アフラトキシン試験の実際  
佐藤孝史  
財団法人食品分析開発センターSUNATEC
- 14:00–14:30 ポスターセッション (5F 小ホール ホワイエ)
- P1 *P. expansum* のパツリン産生に対するりんご成分等の影響  
○白澤隆史<sup>1</sup>、植田基寛<sup>1</sup>、東原圭亮<sup>1,2</sup>、竹内正彦<sup>1,3</sup>  
後藤哲久<sup>1</sup>  
1 信州大学農学部、2 サントリー、3 長野県農村工業研究所
- P2 Natural contamination of rice straw by zearalenone indicated by persistently high urinary zearalenone concentrations in a cattle herd  
○H. Hasunuma<sup>1,4</sup>、M. Takagi<sup>1</sup>、O. Kawamura<sup>3</sup>、C. Taniguchi<sup>3</sup>、M. Nakamura<sup>1</sup>、T. Chuma<sup>1</sup>、S. Uno<sup>2</sup>、E. Kokushi<sup>2</sup>、D. Matsumoto<sup>4</sup>、C. Tshering<sup>1</sup>、E. Deguchi<sup>1</sup>、and J. Fink-Gremmels<sup>5</sup>  
1Faculty of Agriculture, Kagoshima University、  
2Faculty of Fisheries, Kagawa University、  
4 Shepherd Central Livestock Clinic, and 5Faculty of Veterinary Medicine, Utrecht University
- P3 高分解能 LC-Orbitrap MS によるタイプ A トリコテセン由来マスクドマイコトキシンの検出  
○中川博之<sup>1</sup>、坂本 茂<sup>2</sup>、佐合由紀<sup>1</sup>、久城真代<sup>1</sup>、長嶋 等<sup>1</sup>  
1(独)農研機構・食総研、  
2(株)サーモフィッシャーサイエンティフィック
- P4 “RIDA スクリーン FAST アフラトキシン” の通知法による

バリデーション

○森田 裕<sup>1</sup>、A. Tischer<sup>2</sup>、B. Reck<sup>2</sup>、M. Mahrn<sup>2</sup>、W. Lübbe<sup>2</sup>  
1 アヅマックス(株)、2 R-Biopharm AG

P5 加熱した麦類中のデオキシニバレノール分析に対する  
ELISA法の有効性評価

○門田智之<sup>1</sup>、草田 修<sup>2</sup>、榊原美奈子<sup>2</sup>、横山亜紀<sup>1</sup>、  
中島 隆<sup>3</sup>、平野 哲<sup>1</sup>、田嶋 修<sup>1</sup>

1 キリンググループオフィス(株)、2 協和メデックス(株)  
KMアッセイセンター、3 農研機構九州沖縄農研

P6 化合物アレイを用いたトリコテセンの生合成阻害剤探索に  
むけて

○中嶋佑一<sup>1</sup>、吉田 稔<sup>1</sup>、木村 真<sup>1,2</sup>

1 理研基幹研、2 名大院生命農

14:30-15:00 総会 (5F 小ホール)

15:00-16:00 日本マイコトキシン学会功績賞 受賞講演 (5F 小ホール)

フザリウム菌のマイコトキシン産生能とその病原性に  
関する研究

杉浦義紹

神戸市環境保健研究所

マイコトキシンの分析法の開発と食品の安全性向上に  
関する研究

田端節子

東京都健康安全研究センター

16:00-16:10 休憩

16:10-17:25 シンポジウム (5F 小ホール)

「オクラトキシンAのリスク評価最前線」

座長：中島正博 (名古屋市衛生研究所)

S1 オクラトキシンAの毒性・発がん性に関する現在までの  
情報

渋谷 淳

東京農工大学大学院 獣医学専攻

S2 オクラトキシンAの腎発がん機序解明へのアプローチ  
梅村隆志

国立医薬品食品衛生研究所 病理部

S3 オクラトキシンA産生に関与する *Aspergillus ochraceus*  
の再同定

馬場 浩  
財団法人日本食品分析センター多摩研究所  
微生物研究課

17:25－17:30 会長挨拶 小西良子 会長 (国立医薬品食品衛生研究所)

次回学術講演会世話人挨拶  
佐久川さつき (沖縄県衛生環境研究所)

閉会

---

17:45－19:45 懇親会 上野精養軒 (タワーホール船堀 1 F)